

平成 21 年 6 月 4 日

関係各位

千葉大学普遍教育センター 山内正平

授業科目「NPO インターンシップ」の共有化について（企画書）

【趣旨】 現在千葉大学において開講されている「NPO インターンシップ」を連携大学で共有することによって、地域の有する教育力（市民力）を有効に活用する。

ただし単位互換ではなく、各大学が同じ授業科目（授業科目名は違っていても良い）をもち、それぞれの大学で単位として認める。（成績はそれぞれの大学でつけるが、評価基準、方法は共通。）

昨今大学の学習成果として求められる社会的基礎能力（学士力や汎用的コンピテンス、ジェネリックスキル等）は、そもそも大学内での学習のみでは到達しがたく、地域（NPO、市民団体等）が有する優れた市民力を活用して始めて到達しうる学習目標であると言っても過言ではない。

これまでの単位互換とは違う、地域の教育力を活かす新たな大学間連携を目指す。

【利点】 地域と大学が連携して学生を育てることが、地域の力を育てることにつながる。千葉県 NPO 活動推進課でも、NPO の有する教育力という点に関心を持っており、個別に大学が動くよりも、資源を共有することによって、集合体としての力が大きくなる。また、地域の中で学生を育てるといった共通の目標を立てることによって、地域と大学との協働の目的がより鮮明になる。

幸いなことに千葉県は NPO 活動にたいへん力を入れており、信頼できる NPO 団体が数多くあるが、千葉大学では約 30 団体に依頼しているに過ぎず、複数の大学で同じ授業を開講すれば、団体の掘り起こしも可能になる。（この 2、3 年、千葉大学ではこの授業を受講する学生が 20 人程度にとどまっており、団体数を増やす根拠が見あたらない。）

【進め方】 賛同する各大学が、授業科目として「NPO インターンシップ」を開講する。授業科目名は必ずしも同一でなくてよい。多くの場合、夏休みに研修がはいるため、通年で集中の授業（2 単位）とすることが望ましい。

共通のシラバスを作成し、研修プロセス（事前研修、マッチング等）、研修時間数（80 時間）、成績評価基準・方法を統一する。

（シラバス等を共通化することによって、例えば事前研修は参加大学のいずれで受講しても良いことになる。）

年度ごとに主担当校（主担当者）を決め、NPO との交渉・調整等にあたる。

その他具体的事項については、必要に応じて、千葉県 NPO 推進課にも協力を依頼しながら、協議する。

【課題】 一つの NPO で受入可能な人数に制約があり、研修希望が偏る場合に人数あるいは研修期間の調整が必要になる。

研修学生が多い場合、NPO にとって過度な負担になる可能性がある。

ご検討いただければ幸いに存じます。